

はーとん通



今回のハートン通は2020年大河ドラマの主人公「明智光秀」について書いていきます。
ざっくりとした経歴 2020.5

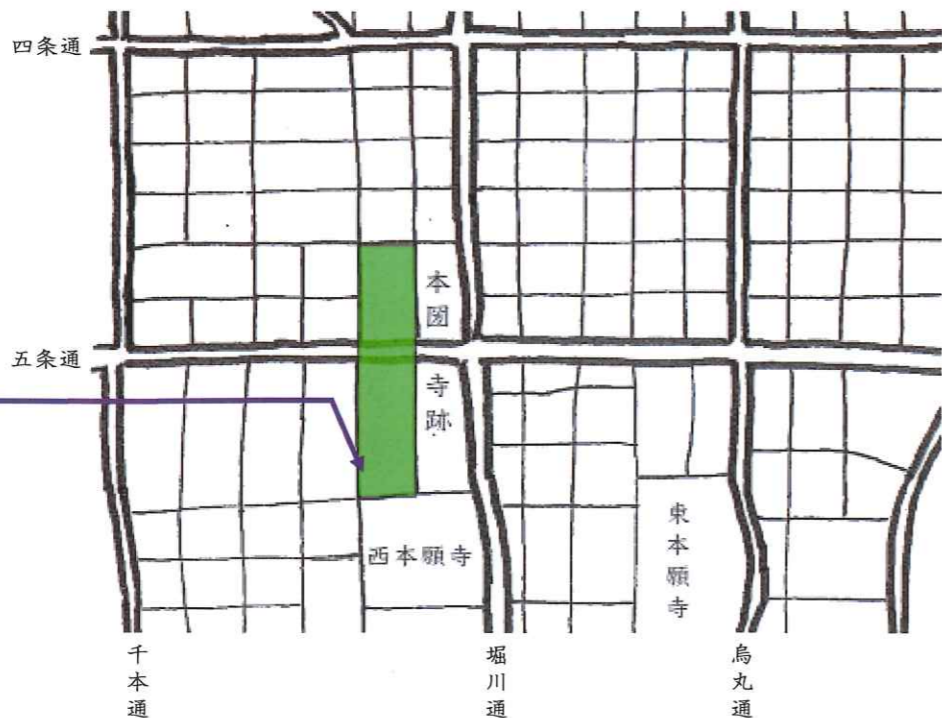
明智光秀は出自について通説が多々あり、生年は不詳。織田信長に仕えたのが40歳頃と言われています。当時足利将軍家に仕えていたが、信長に見いだされ直臣となります。その後数々の功績を立て、織田家四天王の一角に上り詰め、本能寺の変直前には信長に次ぐNO.2になりました。その出世の足掛かりとなった本圀寺の変を次に紹介します。

本能寺の変

1569年足利義昭の家臣だった光秀は義昭の上洛に随行。当時六条堀川にあった本圀寺(現在は山科に移転)を仮御所としていました。ここには三好三人衆が1万の兵を率いて襲撃。その時信長は美濃へ帰国して不敵。信長に急報を出すも大雪で援軍も期待できない中わずかに千名ほどの警護兵と奮戦して何とか撃退。信長も過酷な道のりを凍死者を出しながらも2日で駆け抜け合戦。これを契機に光秀は足利将軍家と織田家の両属の家臣となりました。ちなみに当時は「本圀寺」と表記されていたが、永戸黄門と徳川光圀が帰依した事によって「本能寺」と寺号を改めました。本圀寺が襲撃された事を受け、防衛の観点から二条城を築城。建物をはじめ絵画等々本圀寺から運び込まれました。現在の二条城は徳川家康が建てたもので、信長が建てたものは京都御苑の西側平安女学院大学の京都キャンパス付近にありました。二条古城または旧二条城と表記されており、御苑内榎木口付近と室町通下立売にある石碑が当時を偲ばせます。



↑西本願寺から大宮通りを北に進んだ所にある石碑。普通の街並みの中に突如巨大な石碑があります。



本能寺の変

1582年信長包圍網打倒の為、柴田勝家や滝川一益は出兵中。丹羽長秀は大坂で徳川家康をもてなしている、羽柴秀吉は中国攻めで毛利勢と対峙していました。信長は茶会の為100名弱のわずかな手勢で本能寺に投宿。その時光秀は中国攻めの加勢を命ぜられ京都で1万3千の兵を率っていました。居城である龜山城を包囲して本能寺へ討ち入り信長を自刃に追い込みます。さらに息子の信忠も二条城にて同じく自刃に追い込むも、どちらの遺体も見えず。信長・信忠二人の首を手に出来なかった事もあり、多くの武将の協力を得られませんでした。その後いち早く駆けつけた秀吉に敗北し、落ち武者狩りに連れて自害しました。ちなみに本能寺の夜をめぐり度々火災に見舞われており、「ヒ(火)」の字を嫌い「ヒ(火)が去る」の意味を込め「本能寺」と改号しています。現在の本能寺は豊臣秀吉が移築したもので、当時は1ブロックほど西に位置しており、南北に200m、東西に100mほどの敷地を有していました。京都での光秀の足跡は他にも丹波早稲や京都御所揃いの陣頭指揮、山崎合戦とありますが、思った以上に地味なので割愛させて頂きました。

↓湖小路通にある石碑。実際にある本能寺跡より微妙に南にズレています。



→御苑内榎木口付近の石碑。放道自転車に囲まれています。←室町通下立売の石碑。車道に面して町中にあります。



↑JR亀岡駅より徒歩5分南郷公園にある銅像。2019年6月に建立された背後には龜山城址お城見学可能ですが大本教の管理地で入口は入りづらい感じ

